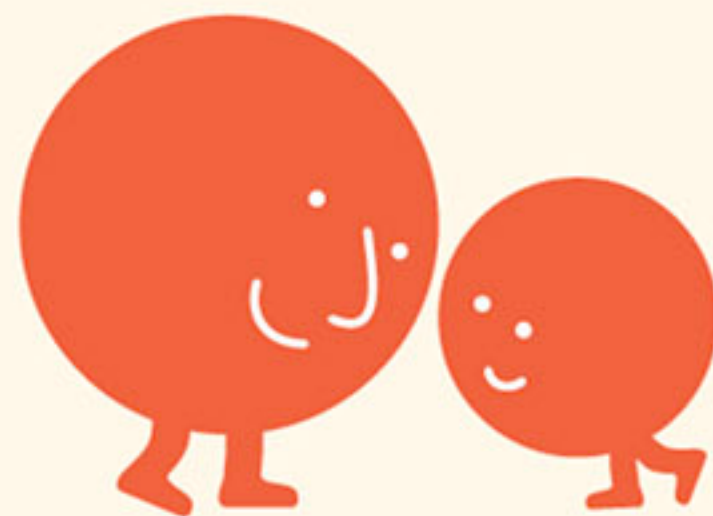


「親子の日2025」活動報告書

~Present to the future~

「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物」です！



親子の日普及推進委員会

2026/05/7

親子の日とは

5月第2日曜日は、母の日。

6月第3日曜日は、父の日。

7月第4日曜日は、親子の日。

年に一度、親と子がともに向かい合う日があってもいい。その一日を通して、親子の絆がより深められたら――

そんな願いから、2003年に誕生しました。

提唱者は、米国人写真家ブルース・オズボーン。

「親子の日」は、親と子の関係を見つめることを通して、私たち一人ひとりが命の起源と向き合う日です。親子は、人と人がつながる最小単位の関係です。その関係に向き合うことは、家族、地域、社会へと視野を広げ、さらに自然環境の中へと循環し、未来へと続いていきます。そして「親子の日」は、命の連なりの中に自分を見出し、存在するすべての生命に敬意を払い、平和を願う日です。それが、「親子の日」に込められた理念です。

親子の日普及推進委員会は、「未来への贈り物 ～Present to the Future～」を合言葉に、この想いを社会へ発信し続けています。



「親子の日」の発足の経緯と沿革

2003年7月、ブルース・オズボーンが「親子の日」の制定を呼びかけ、第1回撮影イベントとして100組の親子を招待し撮影会を実施しました。

この撮影会に参加した有志により、「親子の日普及推進委員会」が設立されました。

同年、「親子の日」は日本記念日協会の認定を受け、記念日文化功労賞を授与されました。

撮影された親子は10,000組以上です。

展示・撮影会は300カ所以上で実施されて、活動は国内外へ広がっています。

現在では、コンテスト・展示・トークライブなど、多様な文化活動へと展開しています。

親子の日公式WEBサイト：<https://oyako.org>

ウィキペディア：<https://ja.wikipedia.org/wiki/親子の日>



ブルース・オズボーン
写真家「親子の日」オリジネーター

1980年、小西六ギャラリーでの写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での本格的な活動を開始。
コマーシャルフォトグラファーとして数々の広告・媒体に携わる一方、東京のティーンエージャーを撮影した等身大パネル作品をボストン子供の博物館での企画展に出展するなど、写真を通じての文化交流にも寄与しました。
インターネット黎明期には、アメリカの高校生向け教育番組のディレクターを務め、日本のリアルな情報発信に貢献する機会を得ました。

1982年より「親子」をテーマとする写真撮影を開始。

2003年より、7月第4日曜日を「親子の日」として提唱し、ソーシャルな活動へと展開。

撮影した親子は10,000組を超え、シンガポールやアメリカなど海外でも多数の展覧会を開催。

「親子の日」10周年を記念して制作した映画『OYAKO』は、ベルリン国際映画祭（IFB）にてベストドキュメンタリー賞を受賞。

また、「親子の日」をはじめとする社会的活動が評価され、東久邇宮文化褒賞を受賞。

2003年に葉山へ拠点を移す。

以降は、「親子」という人と人の関係を見つめる活動と並行して、命が育まれる環境というテーマも加え、作品制作に取り組んで今に至る。

「人と人との関係性」や「命のつながり」を軸に、
写真というメディアを通して社会と向き合い続けている。

「今、私たちに求められていることは、
親子というベーシックな関係を再確認すること。
それは、自分が存在していることへの自信を取り戻すことであり、
私たちの命を育む地球環境を大切にする思いへとつながっていきます。」

by BRUCE OSBORN

<https://bruceosborn.com>

2025年「親子の日」 公式イベント 活動一覧

22周年を迎えた「親子の日」は、充実した事業内容で一年を終えることができました。写真コンテスト、エッセイコンテスト、親子大賞への参加者増加、オンライントークライブの継続などを通じて、多くの方の共感と応援をいただくことができ大きく成長することができた年でした。

エッセイコンテスト

募集:5月1日～8月31日

写真コンテスト

募集：5月1日～8月31日

親子大賞

投票：5月1日～8月31日

オンライン トークライブ

毎月一回を基本として開催

親子写真まつり

日程：7月1日～8月4日

公式イベント

● 第22回 スーパーフォトセッション

- ・開催日：7月第4日曜日「親子の日」（2025年7月27日）
 - ・内容：親子を対象とした記念撮影イベント
 - ・特徴：発足当初から継続する中心的事業
- 「親子」という関係を可視化する象徴的活動

● 第17回 親子大賞（オンライン）

- ・投票期間：6月1日～6月27日
 - ・発表：7月27日
 - ・内容：「最も輝いている親子」を選出
 - ・大賞：森下一徹（写真家）＋森下美歩
 - ・特徴：「広島原爆80年」と連動
- 社会的メッセージ性の強化

● 親子写真コンテスト2025

- ・募集期間：5月1日～8月31日
 - ・発表：10月26日
 - ・形式：一般公募
 - ・入賞作品の選考・発表
 - ・ダイジェスト映像として再編集
- 個人の体験を社会的共有へ

● 親子エッセイコンテスト2025

- ・募集期間：5月1日～8月31日
 - ・発表：10月26日
 - ・形式：一般公募
 - ・親子をテーマとした文章作品の募集
 - ・入賞作品の発表後にブログに掲載
- 言葉による「親子」の記録と継承

● 写真展「親子写真まつり」

- ・開催期間：7月1日～8月4日
 - ・展示会場：日本外国特派員協会（FCCJ）
 - ・国内外の写真家によるグループ展
 - ・テーマ：「親子の数だけある物語」
 - ・親子の多様性を可視化
- 展示後に映像を制作しアーカイブ性を高める構成

● 親子の日オンライン・トークライブ

- ・開催頻度：月1回（基本的に第4日曜日）
 - ・テーマ：「未来への贈り物 ～Present to the Future～」
 - ・各界ゲストとの対談
 - ・親子／生き方／社会をテーマに発信
- 継続的な思想発信の場

親子写真撮影会 スーパーフォトセッション

「親子の日」誕生のきっかけとなった写真撮影会「スーパーフォトセッション」は、今年、写真家 ブルース・オズボーンの地元・葉山に新たに開設されたフォトスタジオAOで開催されました。

7月の暑い日ではありましたが、葉山の心地よい風に包まれながら、44組の親子が参加し、和やかな時間が流れました。それぞれの親子のかけがえのない瞬間が記録され、「親子の日」の原点をあらためて感じる一日となりました。



「親子大賞2025」

第17回を迎えたオンラインイベント「親子大賞」では、森下一徹氏と森下美歩さんの親子が選ばれました。広島原爆投下から80年という歴史的な節目の年にあたり、被爆者の記録を撮影し、「被爆者写真展」を通して戦争の現実を伝え続けてきた森下一徹氏の功績、そしてその意思を引き継ぎ、活動を継続している森下美歩さんの取り組みを、深く受け止める機会となりました。この受賞を通して、あらためて「命の起源と向き合う日」という原点を見つめ直すとともに、「親子の日」の本質を社会の中で問い直す一年となりました。



写真コンテストと エッセイコンテスト

全国各地から、「親子の日」への想いや願いが
込められた、多くの作品が寄せられました。
写真とエッセイ、それぞれの表現を通して、
多様な「親子のかたち」と、その背景にある物
語が浮かび上がっています。
受賞作品は、以下のリンクよりご覧いただけま
す。

写真コンテスト

<https://oyako.org/project/photo-contest>

エッセイコンテスト

<https://oyako.org/project/essay-contest>

募集期間：5月1日～8月31日

発表：10月26日



写真展「親子写真まつり」

第6回目を迎えた写真展「親子写真まつり」のメインテーマは、昨年に引き続き『親子の数だけ親子の物語』。「親子の日」の活動に共感いただいた国内の写真家に加え、ベトナム、中国、セネガル、ヤップ島、アメリカ、イラン、南アフリカ、インド、バングラディッシュで撮影されたプロカメラマンによる作品を展示しました。会場を訪れた方々や、オンラインで作品をご覧いただいた多くの皆様から、共感のメッセージが寄せられ、本展は世界の平和を願う場となりました。



イベント概要

- 会場：日本外国特派員協会（FCCJ）
東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル5階
※入場無料
- 期間:7月1日～8月4日
- 配信URL：<https://oyako.org/matsuri/>

オンライン・トークライブ

「親子の日」では、毎月1回実施している「親子の日オンライン・トークライブ」が、年間を通じて継続的に発信を行う重要なコンテンツの一つとなっています。

このライブでは、各界で活躍するゲストをお迎えし、「未来への贈り物～Present to the Future～」をテーマに、それぞれが大切にしてきた価値や、未来へと手渡したい想いについて語り合っています。

デザイン、アート、教育、地域活動、ものづくり——分野は異なっていますが、その根底には、「誰かのために何を残せるか」という問いが流れています。そして、この問いかけが、「親子の日」にとって、大切な発信の柱となります。

ゲスト一覧：

永井巧 | 一般社団法人そっか！代表理事（1月） 木下聡 | Audika株式会社代表取締役社長（2月） 都築響一 | 編集者（3月） 佐藤安南 | 映像ディレクター（4月） 橘右之吉 | 橘流寄席文字・江戸文字書家（5月） 柳瀬 博一 | 東京科学大学リベラルアーツ研究教育院教授（6月） 「親子の日」スペシャルライブ（7月） 泉谷 満寿裕 | 石川県珠洲市市長（8月） 松本梨香 | 声優、女優、歌手、タレント（8月） 鹿野貴司 | 写真家（9月） 横森理香 | 作家（10月） テミヤン | ミュージシャン（11月） 石井志津男 | プロデューサー、編集者、映画監督（12月）

[オンライン・トークライブの視聴はこちら](#)



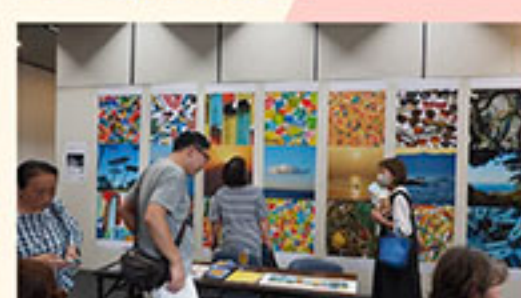
2025年 活動総括

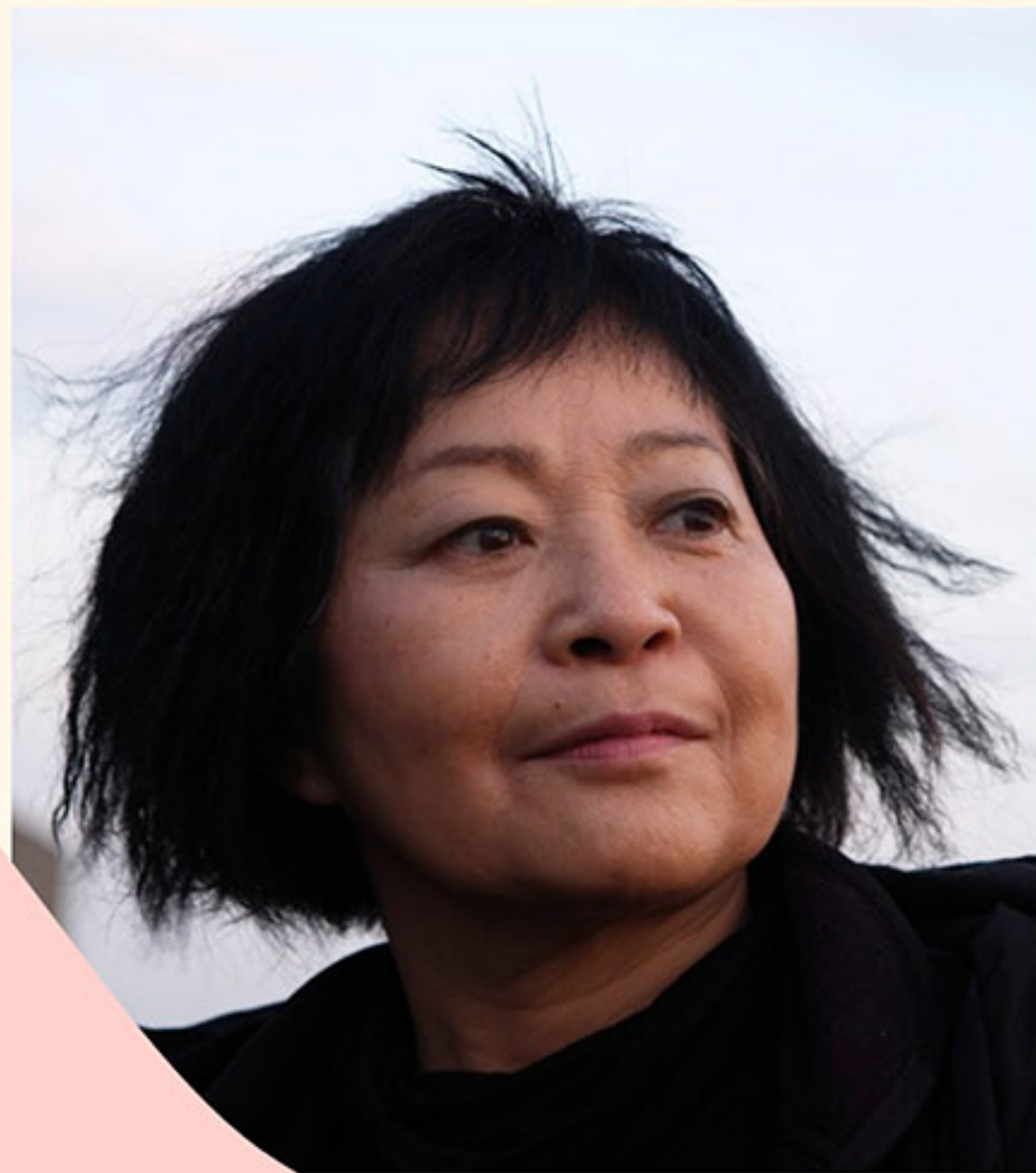
2025年も、「親子の日」の活動は、公式イベントにとどまらず、地域イベント、写真展、オンライン企画などを通じて、多くの方々へ広がりました。

戦争や災害など、不安定な社会状況が続く時代だからこそ、「親から子へと受け継がれる命」について見つめ直し、「生まれてきてよかった」と感じられる社会への願いを、写真と言葉を通して発信し続けています。

地域連携イベントとしては、「くだまつ親子の日（山口県）」「我孫子の親子の日（千葉県）」「珠洲市の親子の日（石川県）」など、地域の状況に沿った多彩なイベントが開催されました。

芸術祭・展示活動も盛んに行われ、たくさんの方に「親子の日」を知っていただくイベントが実施されました。





22周年を迎えた「親子の日2025」の活動を、無事に終えることができましたことを、感謝を込めてご報告申し上げます。

今年も世界のあちこちで争いが絶えず、多くの大切な命が失われている現実
に、胸を痛める日々が続きました。

1億2千万人を超える人々が、戦争や迫害、暴力などによって故郷を追われたとい
う、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の報告に接するとき、私たちの日常が決
して当たり前ではないことを実感いたします。

そのような時代だからこそ、本年も「今、自分たちにできることは何か」を模索し
ながら、「親子の日」の普及活動を継続してまいりました。

1982年に始まったブルース・オズボーンによる「親子写真」の撮影をきっかけに、
2003年、「親子の日」は誕生いたしました。

以来、多くの皆様に支えられながら、歩みを重ねてきた23年間。

「親子」という、人が生まれて最初に出会う関係。

その原点に向き合うことが、争いや分断をどこかで断ち切り、平和への小さな礎に
なるのではないか――

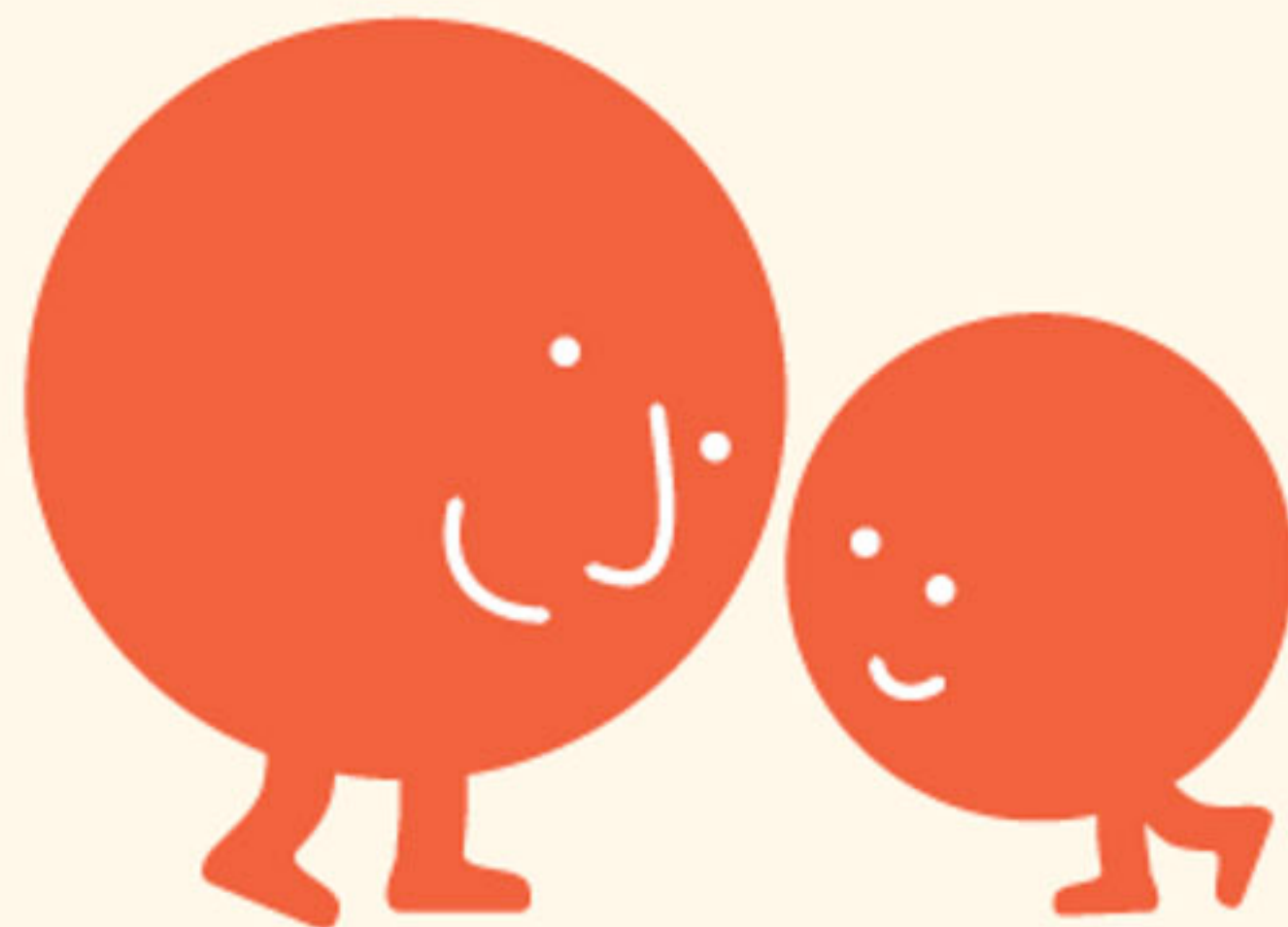
私たちは、今もその可能性を信じています。

これからも、「親子の日」の公式事業をさらに育てていく努力を重ねるとともに、親
から子へ、過去から未来へと受け継がれていく命のつながりを大切にしながら、親
子で守る平和の実現に向けて、より一層活動を充実させてまいります。

今後とも、ご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年1月13日
親子の日普及推進委員会
代表 井上佳子

「親子の日」はあなたと育てる
「未来への贈物～Present to the future～」！



「親子の日」への参加、協力、支援、ご質問は
info@oyako.org にお寄せください